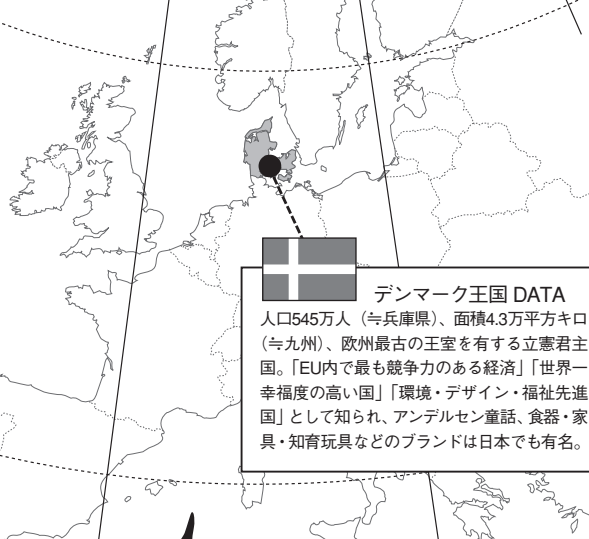




# コペンハーゲン通信 5



**デンマーク王国 DATA**  
 人口545万人（≒兵庫県）、面積4.3万平方キロ（≒九州）、欧州最古の王室を有する立憲君主国。「EU内で最も競争力のある経済」「世界一幸福度の高い国」「環境・デザイン・福祉先進国」として知られ、アンデルセン童話、食器・家具・知育玩具などのブランドは日本でも有名。

当会事務局職員が、昨年1月より在デンマーク日本大使館に外向しています。「EUの中で最も競争力のある経済」（世界経済フォーラム）との評価を受けるデンマークからの現地報告を不定期にお届けします。



## デンマークの環境戦略

### ◆「京都からコペンハーゲンへ」が合言葉

去る12月3～15日、インドネシアのバリ島において、国連気候変動枠組条約の第13回締結国会議（COP13）が開催されました。順調にいけば、2009年に開催される次々回会合（COP15＝第15回締結国会議）において、ポスト京都議定書となる新たな枠組みが合意に至る可能性が高いともいわれていますが、そのCOP15の開催地となるのがデンマークのコペンハーゲンです。

デンマーク政府は、COP15議長国としての立場を最大限に活かして“コペンハーゲン議定書”の実現を主導するため、「京都からコペンハーゲンへ」を合言葉に、気候変動問題を最重要政策課題のひとつに位置づけました。

### ◆新たに気候・エネルギー省（大臣）を設置

その意気込みは、11月に行われた解散・総選挙後の組閣にも如実に表れています。引き続き政権を担うことになったラスムセン政権（自由党・保守党の中道右派連立政権）は、現下の政策課題に対応した小幅の省庁再編を行い、そのひとつの目玉となったのが、気候変動問題への対応を主眼に置いた「気候・エネルギー省」の設置でした。

この再編で「気候・エネルギー大臣」には環境大臣が横滑りし、環境省を所掌する環境大臣には31歳の若手議員が抜擢され、事実上2人の“環境担当大臣”が誕生しました。さらに実務面では、首



国会、首相府があるクリスチャンボ宮殿。(Photo: Lennard Nielsen)

相府に次官補（対外関係担当）として送り込まれている外務省のホープが、首相府内で気候変動問題担当となり、この件でラスムセン首相を支える強力な布陣が敷かれたのです。

### ◆京都議定書での削減目標は▲21%

京都議定書において、EU主要15カ国は2008～12年の間に温室効果ガスを1990年比▲8%とすることを約束していますが、その達成に向けたEU内の各国別割当てでは、デンマークは▲21%という大幅な削減を求められています。しかし、デンマークはこれを「革新（イノベーション）」の好機ととらえ、再生可能エネルギーへの転換や省エネ技術の研究開発を積極的に推進し、新産業育成や国際競争力の強化に結び付けようとしています。

### ◆環境立国：風力発電で20%の電気を賄う

実際、再生可能エネルギーのひとつである風力発電は、風力発電機の生産・販売で世界シェア約40%、国内電力消費の約20%を風力発電で賄う（2025年に50%が目標）など、デンマークが世界に誇る産業のひとつにまで発展してきました。

COP15の議長国になることは、国際政治において「環境」をてこに小国が一定の存在感を示せるのはもちろんですが、世界各国から数多く集まる参加者に対して、優れた環境技術や持続可能な社会モデルを披露し、環境立国としてのブランドをより強固にする絶好の機会なのです。



風力発電機の列。(Photo: Jørgen Schytte)



齋藤 弘憲

在デンマーク日本大使館一等書記官  
 （経済同友会事務局より外向中）